



福島県
小学校長会

会報

- 巻頭言…………… 1
- 教育ニュース
「福島県教育委員会教育長
メッセージ」…………… 2
- 特集「ふるさとを愛し とも
に未来を切り拓くたくましい
子どもの育成」…………… 3～6
- 支会だより…………… 7～10
- ふくしま人この道に生きる… 11
- 表彰・各部だより…………… 12



福島県小学校長会会長あいさつ

顔を上げ、前を向いて

子どもたちの「学び」を守るために

福島県小学校長会会長 横山 貴英

東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故による未曾有の複合災害に直面した時、諸先輩方は「学校は復興の最大の拠点」を合言葉に、下を向くことなく一丸となって大きな困難に果敢に挑み続けてきました。その取組が子どもたちを守り、復興へとつながってきています。11年がたった今、被災地校の統廃合の大きな動きや帰還後の子どもの極少数化等問題は続いており、根強い風評とともに震災記憶の風化も重い課題となっています。合言葉は今も大きな意味をもっています。

さらに、コロナ禍の終息が見通せず、高止まりが続く現在、学校は新たな困難に面しています。世の中では感染防止と経済活動が取り上げられていますが、我々にとってはまさに子どもの健康安全のための感染防止と学びの保障・充実の問題です。学校では検温・健康観察の徹底やマスク着用、手洗い・消毒等の習慣化が図られ、感染レベルに応じてリスクの高い教育活動を中止したり制限をかけたかりして感染防止に効果を上げています。

一方で、それが子どもたちの学びに影響を及ぼしていることも否めません。学校の悩みはそこにあります。向かい合って、互いの表情やしぐさを直に感じながら話し合うことや、多種多様な人々や場所にかかわりながら存分に体験することをいかにできるようにするか。制限の中で感じるストレスや不安をいかに解消するか。そのために学校は校長先生のリーダーシップの下、懸命に創意工夫に努め、子どもたちのために最大限の努力を続けているのです。その意味では「学校は学びの最大の拠点」と言えるのではないのでしょうか。

社会の急激な変化に向け変革が求められている今、課題は他にも山積し、どれをとっても容易に解決できるものではありません。だからこそ我々の英知を集結・共有し、一歩ずつ歩みを進めていくことが、希望へとつながると思います。ぜひ、我々もこの困難に対して先輩方の思いを受け継ぎ、うつむくことなく顔を上げ、前を向いて進んでいきましよう。未来を担う子どもたちのために。

〈令和4年度 福島県小学校長会第1回理事会開催〉

福島県小学校長会の第1回理事会が4月20日、パルセいいざかにおいて開催されました。会長として福島市立福島第一小学校長 横山貴英氏が選出されました。また、新役員として次のとおり決定するとともに、本年度の活動方針などが承認されました。

- | | |
|-------|---------------|
| ● 会 長 | 横山 貴英 (福島 一) |
| ● 副会長 | 丹治 秀樹 (福島 四) |
| | 渡辺 惣吾 (石 川) |
| | 小林 義弘 (小 金 井) |
| | 高野 淳一 (平 一) |
| ● 監 事 | 柳沼 啓之 (橘) |
| | 田中 純 (喜多方二) |
| | 井戸川 浩 (双 葉 北) |



教 育 長 メ ッ セ ー ジ

「学びの変革」の推進に向けた学校づくりを

福島県教育委員会教育長 大沼 博文



はじめに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、そして、日々子どもたちの学習支援や心身のケア等のために様々な対応を頂いていることに、心から感謝申し上げます。

さて、東日本大震災及び原子力発電所事故から11年が過ぎましたが、本県は今後も復興・創生に向けて、様々な課題を乗り越えていかなければなりません。こうした中、昨年12月に第7次福島県総合教育計画を策定しました。個人と社会のWell-beingの実現に向け、未来を担う全ての子どもに必要な資質・能力を育成する観点から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びを重視する「学びの変革」を柱に掲げ、「福島ならではの教育」を推進してまいります。そのために、今年度具体的に実施する取組として「学びの変革推進プラン」を策定し、6つの施策をしっかりと進めていくこととしております。

施策1「『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」につきましては、小中学校の算数・数学に課題があることから、義務教育課内に新たに研修支援チームを編成し、指導主事が学校を訪問して、ふくしま学力調査結果分析等のエビデンスに基づく具体的な支援を継続的に行ってまいります。

また、公立小中学校において、一人一台端末が整備された中、ICT機器の活用を図り、学びの変革につなげていくことが重要であります。このため、教員研修を充実させ、児童生徒の探究的な学びや情報モラル教育等の充実を図り、情報活用能力の育成に取り組んでまいります。

施策2「『学校の在り方の変革』によって教員の力、学校の力を最大化する」につきましては、今年度から実施する教職員多忙化解消アクションプランⅡ実践モニタリング校支援事業により、時間外勤務時間削減に効果的な取組を確立し、全公立学校に普及することで学校の在り方の変革につなげてまいります。

施策3「学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる」及び施策6「安心して学べる環境を整備する」につきましては、スクールカウンセラーを継続配置するとともに、不登校への対応として専任の教員をスペシャルサポートルームに配置するなど、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境づくりに努めてまいります。また、個別支援教育を推進するために、学級編制基準の上限に達し、特に支援を要する特別支援学級に対しては、新たな時間講師を配置することで、よりきめ細かな支援に努めてまいります。

皆様におかれましては、これらの取組を各学校の実態に応じて効果的に活用し、保護者の皆様や地域の方々との対話を大切にしながら、子どもたちの可能性を信じ、誰一人取り残さない、一人一人が主役となる学校づくりに取り組まれますようお願いいたします。

結びとなりますが、皆様が校長としてのリーダーシップを存分に発揮し御活躍されることで、本県の教育が益々充実するとともに、福島県小学校長会が更に発展されますことをお祈りいたします。

安達

関わる楽しさ、つながる喜びで 子どもと地域の未来をつくる ～縦割り班活動と総合的な学習の時間を見直す～

二本松市立新殿小学校 紺野 真一

1 はじめに

本校は、二本松市東部、阿武隈高地の過疎の地域にある。今年度の児童数は27名。個に応じたきめの細かい指導が成果を上げている一方、子どもどうしの関わりが限定的で、学習の広がりや深まり、主体的な学びの展開に課題がある。また、長引くコロナ禍により、地域の行事が中止になったり祭礼が縮小されたりするなど子どもたちと地域の関わりが更に希薄になってしまっている。

今年度は、子どもどうしが、そして子どもと地域が関わり合いつながり合うことで、子どもの主体的で深い学びを広げていきたいと考えている。

2 人と関わる地域とつながる

(1) 昨年度の取組から

これまでも、縦割り班活動として、集会活動や清掃などで異学年集団による取組を行ってきた。高学年児童のリーダー性が養われる一方で、低学年児童は上級生に付き従うことにとどまっているというところもあった。また、総合的な学習の時間では、地域の自然や産業、文化について体験し、自分の課題について調べまとめる活動を行ってきた。身近な題材なので楽しく活動し調べ学習にも意欲的に取り組んでいた。しかし、活動を通して学んだことを自分の生活にどう生かしていくかまで深めることはできなかった。

そんな中、本校5年児童の新聞への投稿記事を読んだという地域の方から「おおいに励まされた。自分も、子どもたちのために、できることから活動を再開したい。」とのお電話をいただいた。



三匹獅子の頭をかぶらせていただいた

5年生は、総合的な学習の時間に、地域には引き継がれてきたたくさんの伝統芸能があることを調べた。これをもとに、国語科の意見文を書く学習で、伝統芸能が廃れてしまうことについて自分の思いをまとめ、新聞の読者欄に投稿した。それを読んだ方からのお電話だった。

(2) 今年度の取組

そこで今年度は、子どもどうしの関わりをより主体的に展開するとともに、学習したことを地域に向けて発信することを目標に、探究的な活動を繰り返して学びを深める実践を進めている。

① 友だちとつながる縦割り班活動

今年度は、毎週火曜日の昼休み後の20分間を「タテカツの時間」とし、1年を通して子どもたちの発案による縦割り班活動を行っている。

6月の「スポーツフェスティバル」では、縦割り班対抗チャレラン大会開催のために、1～6年生まで班の全員の知恵を出し合って班ごとにゲームを「班のみんなで試しのゲームを繰り返した考え、子どもたちの手で運営を進めた。これまでの運動会とは違う、自分たちでつくり上げる楽しさを味わった。」



② 地域と、教科とつながる総合的な学習の時間

総合的な学習の時間では、新たに、学区内にある道の駅で学習の成果を地域へ発信する計画を立てている。そのために、地域の人材や関係機関の再整備はもちろん、総合的な学習と他教科等との関係の見直しに取り組んでいる。

これまでは、教科等で学んだことを総合的な学習の時間で活用するという発想だったが、今年度は総合的な学習の時間で学んだことを教科等の学習に生かすことを考えている。昨年度の5年生のように、教科等の学習で、総合的な学習の時間での学びを題材にすることにより、学習意欲が高まり主体的で深い学びにつながると考え、両者が相互に関わり探究的な学びを展開していく計画を、各学級ごとに立てている。

有機的に結びついた学習サイクルにより成長した子どもたちの姿を地域に伝えることで、地域活性化の一助になれば、子どもたちに達成感が生まれ、学びに向かう姿勢も変わると考える。

3 むすびに

新型コロナウイルスに関する様々な対応・対策が、子どもたちの心、子どもたちの学びに及ぼしている影響は小さいものではない。改めて「関わり」や「つながり」をつむぎ直すことで、子どもどうしが、学校と地域が、WIN-WINの関係で結ばれ、お互いの未来を語る、それが私の願いである。

郡山

コロナ禍における 教育活動充実と校長の 資質能力向上のために

郡山市立芳賀小学校 増子 春夫

1 はじめに

本支会は義務教育学校2校を含む全51校で組織され、市内5方部に分かれて実践を進めている。その中では、各校ともコロナ禍における教育活動の充実に苦慮しており、その対応に当たっては本支会の取組・工夫がいっそう必要となっている。

2 教育活動充実に向けての配慮のために

コロナ禍における各学校の取組については、そのときどきの感染状況の把握、県や市の対応に即した細やかな配慮と保護者への具体的な説明・対応が求められる。

例えば授業参観をあげれば、そもそも授業参観を開催できるのか、人数・時間を制限すべきか、分散での参観にすべきか等、悩みはつきない。

そこで、本支会では、各校が対応方針や工夫点等を掲示板的に表現できるロイロノートに記入できるようにした。この機能を生かすと、各校の対応を参考にしながら自校の取組に活用できる、特に締め切り期日を設けなくてもよい、集約する必要がないなど、各校の実情に合った使い方ができる。各校の地域性、規模等、コロナ対応に当たっては、様々な状況から即座に判断する必要があるため、アンケートによる情報収集とは比較にならないくらい大きなメリットがある。

授業参観についての具体例を下に示した。

「授業参観についての提出箱を作成しました。①期日、②実施の有無、方法、③その他、工夫したいこと、について都合のよいときに記入してください」と各校にメール等で連絡する。(本支会では、会長自らが提出箱を作成し、メールで依頼している。)

小30 芳賀小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。	小44 小山田小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。	小03 行徳小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。	小23 高瀬小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。
小21 寺山小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。	小09 行徳小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。	小05 南鏡小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。	小04 行徳二小 ① 授業参観は中止 ② 4月21日(水)に予定していた授業参観は中止とし、4月22日(木)に授業参観を実施する。
小42 大船小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)	小43 阿久保小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)	小49 菊池小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)	小40 堀小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)
小02 芳賀小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)	小24 海山小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)	小06 小堀小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)	小26 芳山小 ① 4月15日(金) ② 4月16日(土)

授業参観における各校の対応

3 校長の資質能力向上に向けて

本支会では毎年、2学期始めに特別研修の機会を設けており、その充実のために何ができるか検討を重ねている。

そこで、ロイロノートを活用して、各校長の意見を吸い上げることとした。「現在、募集中」の状態ではあるが、「令和7年度開設予定の安積中高一貫校のコンセプトについて担当者から話を聞きたい。」「コロナ禍の中、校長同士の情報交換の場が少なくなった。方部のくくりとは別に、学校規模でグループをつくり、『ICT活用』『働き方改革』等について協議したい。」等、意欲的な意見の書き込みが見られる。

このように、各校長の考えや願いを募集するとともに、一覧機能により参考にしてもらうことで校長自らの課題意識を高め、校長の資質能力の向上に努めている。

4 むすびに

コロナ対応は、各学校とも喫緊の課題である。「新しい生活様式」にともなう新しい教育活動の展開、充実を図っていくことが求められている。各校の創意工夫と情熱を本支会が結び付ける役割を果たしていきたい。また、支会の取組を通して校長自身の資質能力の向上も図っていくことで新たな教育活動の充実、創造につなげていきたい。

岩瀬

「ふるさとを愛し ともに未来を切り拓くたくましい子どもの育成」
～新たな教育活動の推進と教職員の資質向上～

須賀川市立大森小学校 森藤 雅之

1 はじめに

本校は地域と保護者からの温かな協力に支えられている学校で、校地内は保護者に加えてPTA本部役員経験者や地区環境保全会からの献身的な協力により、美しく安全な環境を維持している。現校舎から200m離れた旧校舎跡地には校章に描かれシンボルとなっているイチヨウの木があり、毎年秋に高学年の子どもたちはぎんなんを収穫する。洗浄と乾燥の後、小分けの袋に詰め、感謝の一言をそえて保護者と地域、そして年末には市長室を訪れて市長と教育長にプレゼントすることが伝統の行事となっている。



令和3年度1学期に6 旧校舎跡地のイチヨウの木
年生と担任から、「イチヨウ周辺に地域の方々
が憩うことができる公園を作りたい」という提案
があった。若手教職員である担任の資質をさら
に向上させると同時にふるさとを愛する子ども
たちを育てる好機ととらえ、学校で組織的に取
組んだ実践を紹介したい。

2 ぎんなん公園実現のために

子どもたちのアイデアは以下の3点であった。

- イチヨウまでの坂道に階段を作りたい。
- 地域の方々が休めるベンチを作りたい。
- 訪れた人の心が和む花壇を作りたい。

以下の視点で子どもたちの思いをつないだ。

(1) 子どもたちの思いを地域とつなぐ

まず担任を育てるために、区長及び地区環境保全会長と担任とをつなぎ、連絡調整を担当させた。さらに、子どもたちの願いが地域の方々に届くように、総合的な学習の時間に区長と地区環境保全会長と話し合いをする機会を2回設けた。話し合いにより、地区環境保全会の事業と連携することで資材等の費用の大部分を負担いただけたことを教えていただくとともに、ベンチを木材から加工する作業についてはPTA本部

役員経験者の方が協力してくださる話もいただいた。

(2) 子どもたちの思いを関係機関とつなぐ

旧校舎跡地は市の財産であるため、学校単独で整備できるものではないと判断した。教頭より市の担当課に問い合わせをしたところ、地域の団体が地域のために跡地を活用するのであれば、全く問題はないとの回答を得ることができた。本校を取り巻く地域全体が市から信頼されていることを感じると同時に、学校単独で活動を展開するよりも地域と連携することがいかに大切であるかがよく分かった。

(3) 子どもたちの思いを保護者とつなぐ

地区と地区環境保全会さらにPTA本部役員経験者の方々の協力を得て、資材と加工についての用途はついてきたが実際の設置作業を子どもたちと担任で行うことは安全面において困難があった。そこでPTA担当に相談したところ、保護者にも参加いただく学年行事として作業をしてはという意見が出された。PTA会長と学年委員長に相談したところ、快く協力の申し出をいただき親子活動として作業することが決定した。

当日は児童と保護者、地域の方々による協働



保護者・地域の方々との協働作業

作業を行い、35段の階段と手すり、5m×2.2mの花壇、さらに長さ1.5mのベンチ4基を設置することができた。

3 むすびに

実践を通して改めて感じたことは、教育活動は学校単独で進めるよりも保護者・地域とともに作り上げることで質が高まり、子どもも教職員も育つということである。これからも本校の強みである保護者・地域とのつながりを生かして、ふるさとを愛し、未来を切り拓く子どもたちを育てたい。

4月、6年生は卒業してしまったが、花壇には



下校途中にベンチで一休み

チューリップが咲きそろい、地域の方々が散歩で立ち寄っている。下校途中の子どもたちも一休みするなど、心和む憩いの場となっている。

石 川 ふるさに根ざす学校教育 ～地域を知り、地域に伝える取組～

玉川村立玉川第一小学校 酒井 修三

1 はじめに

本年度、教育目標を「ともだち大好き・学ぶの大好き・じぶん大好き」と改めた。児童にも保護者や地域にも分かりやすいものでありたいという願いからである。学校は、家庭や地域の教育力なくして成り立つものではないし、学校と家庭、地域が互いの関係を密にすることによって力を発揮し、地域に根付くものと考え。ふるさを愛し、たくましく生き抜く児童の育成のための本校の取組を紹介する。

2 ふるさとを愛し ともに未来を切り拓く たくましい子どもの育成

(1) 地域を知り関わりをもつ

震災以降、カリキュラムが見直され、これまで以上に地域での活動に慎重を期すようになった。日常生活では児童の登下校のほとんどが車での送迎となるなど、人々と接する機会も少なくなっている状況下で、本物を見て、ふれあい、様々な体験をすることは児童の経験値となり、たくましい子どもへの確実なステップとなる。地域を知り関わりをもつことは、そのための出発点であると考え、次のような取組をしてきた。

① 歩こう歩こう大作戦（地域を知る）

車での送迎を原則禁止。徒歩通学を奨励し、短縮日課など終業が通常より早い時は、一斉下校を「歩こう歩こう大作戦」とし、異学年
方部ごとの一斉徒歩下校
集団での徒歩下校日としている。



② 公道を使用した自転車教室（地域で試す）

4年生以上の自転車教室を実際の公道を使用して行う。地域に走る国道118号線は交通量も多く危険な箇所が点在するが、あえて実施する事に意義があると考えている。

③ ボランティアの活用（地域の人にふれる）

毎週金曜日に村のボランティアの方々の読み聞かせを行っている。昨年度の1～4年の

対象を、今年度より全校生とし回数も多く設定している。

(2) コロナ禍での開かれた学校をめざす

授業参観や行事への保護者や地域の方々の参加が制限される中であるが、教育方針や取組を発信し続け、理解いただくことが大切である。HPや学校だよりでの紹介だけでなく、形を変えながら様々な取組を行っている。

① 保護者を招いての特設部活動発表会

大会等が中止となる中、特設部員の保護者を対象とした発表会の場を設けた。一度きりの合唱部、自転車部の発表は、児童の自己実現を図



特設自転車部発表会

るとともに活動のねらいを理解していただく貴重な機会となった。

② 臨機応変に対応する授業参観

昨年度、一堂に会しての授業参観の実施が難しいため、前後半に分けての参観やHP上での授業紹介を行うなど、感染状況を考慮し臨機応変に対応した。中止という選択肢は設けず、創意工夫のもと実施してきた。

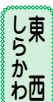
③ 保護者への周知から始める多忙化解消

「働き方改革」は保護者の理解があって初めて実現できると考える。教職員の日頃の業務を保護者に理解してもらうことは、保護者の協力を得ることにつながる。

本校では、教職員の超過勤務時間の公表や業務の内容を保護者に伝えることで、協力を得ている。適切な児童の登校時間、配付文書等の精選についても理解を得ている。

3 むすびに

過疎が進む本村は、学校への期待が大きい。コロナ禍においてもそれらは変わらず、協力を惜しまない地域性も変わらない。ふるさを愛することは、地域を知ること始まり、ともに未来を切り拓くとは、学校、家庭、地域が協働し、児童の力を高めることに他ならない。自立する子どもたちの育成を念頭に、今後も学校経営に努めて参りたい。



今年度の活動に向けて

白河市立白河第二小学校 井上久仁夫

1 はじめに

本支会は、1市4町4村34名の会員で組織されている。昨年度末に白河市の信夫第一小学校・信夫第二小学校・大屋小学校が統合し、大信小学校として新たなスタートを切った。会員は、2名減少となったが、新任9名を含む12名の新会員を迎え今年度の活動がスタートした。

コロナ対策に関しては、昨年度までの対応を基に各教育委員会と連携して進めており、日常的に会員相互の連携と情報共有を図りながら取り組んでいる。

2 本年度の取組

(1) 研究の推進

本支会では、9市町村を五つの班に分け、それぞれが県の研究テーマに沿って研究を進めている。今年度も、従来どおり研究を進め、11月の支会大会での発表を通して成果と課題の共有を図る予定である。また、研修会は昨年度よりも半日分削減し、全3回の中でそれぞれの班の特長を活かした研究を進めていく。

(2) 各専門部会の取組

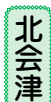
行財政部、研究部、生徒指導部、広報部、特別調査部の5部を設け、県の取組を踏まえながら活動している。今年度も、各取組において最大の効果が得られるよう活動し、その成果が各学校現場で生かされるようにしていきたい。

(3) 教職員の働き方改革

本支会では、9市町村教委が、授業時数の確保と教員の働き方改革のため、令和元年度から夏季と冬季の休業日を合わせて6日間縮減している。その趣旨を全教職員が受け止め、働き方改革に活かされるようにしていかなければならない。『教職員多忙化解消アクションプランⅡ』に基づき、各校とも取組を行っているが、県や国への要望すべきことも見据えながら、さらに進めていく。

3 むすびに

感染予防策による影響が、学習活動の制限・体験活動不足・日常的な運動量の低下等、様々なところに現れ始め、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきている。マイナス面ばかりにとらわれることなく、今後も、子どもたちの健やかな成長に向け、地教委・地域・保護者と協力しながら会員一丸となって取り組んでいきたい。



今年度の活動に向けて

猪苗代町立千里小学校 高久 賢一

1 はじめに

本支会は、1市2町（会津若松市、磐梯町、猪苗代町）の27校の会員で組織されている。今年度は、新任3名を含む9名の新会員を迎え、新たなスタートを切った。昨年度は、コロナ禍のため、制限された中での活動だったが、今年度は、次年度開催予定の県研究協議会会津大会に向けて、これまで以上に会員相互の関係を密にし、大会成功に向けての準備に取り組んでいく。

2 本年度の取組

(1) 研究の推進

研究部を中心に3班構成で推進しており、1班は「Ⅰ学校経営 1経営、組織・運営」、2班は「Ⅱ教育課程 3知性・創造性」、3班は「Ⅲ教育課題 10社会との連携・協働」を担当し、研究を推進することとした。特に、2班は発表支会となるため、8月の中間発表時には、県の第3分科会担当幹事に指導助言を依頼し研究を深める予定である。

(2) 各専門部の活動

行財政部、研究部、広報部、生徒指導部の4専門部を設けて活動している。行財政部は、諸調査の実施と集約、報告を行い、教育行政改善のための活動を推進する。研究部は、3班構成で推進していく。広報部は、年3回の発行を行い、今年度よりデータ配信とする。生徒指導部は、県生徒指導部の活動として諸調査の実施と集約、本支会の現状と課題を「生徒指導部だより」としてまとめ報告する。

(3) 県研究協議会会津大会に向けて

令和5年度に開催予定の県研究協議会会津大会に向けて、研究の推進を始め、会場の確保や開催方法について、会津ならではのおもてなしができる大会となるよう準備を進めていく。

3 むすびに

今年度も新型コロナウイルス感染症対策と教育活動を両立させながら学校生活を送るようになる。本支会では、運動会や修学旅行、鼓笛パレード等についても各校の取組について情報共有し、子どもたちの学びについて意見交換をしている。昨年度と比べ、3分の1の会員が入れ替わったが、様々な教育課題について、全会員が一丸となって取り組んでいきたい。

耶 今年度の活動に向けて

喜多方市立第二小学校 田中 純

1 はじめに

本支会は、喜多方市、西会津町、北塩原村の、20名の会員で組織されている。今年度は8名の新しい会員を迎えた。新たな組織で令和4年度のスタートを切ったところである。

2 本年度の取組**(1) 校長としての資質向上**

年4回の研修会を通して、校長としての研鑽を積んでいく。学校関係者及び外部講師の話を通して、様々な視点から学校経営を見つめなおす場とする。また、各校の課題・対策等の情報交換を行い、よりよい学校運営の在り方を考えていく。

(2) 研究の推進

令和5年度の福島県小学校長会会津大会を見据え、各班ごとに研究を進めていく。「経営、組織・運営」は発表支会、「学校安全」及び「社会との連携・協働」は希望支会となるので、各校の実態を踏まえながら、「校長としての在り方」を研究していく。東北連合小学校長会研究協議会岩手大会に9名参加し、研修したことを支会に持ち帰り共有化を図る。

(3) 人材育成

学校経営研究会で、次代を担う学校経営者を育成する。

(4) その他

8月に、退職校長会との研修会を実施し、研修・親睦を深めていくことを計画している。

3 むすびに

新型コロナウイルス感染症拡大により、教育活動の制限および日程の変更や諸活動の中止を余儀なくされている。本支会も研修会の持ち方について試行錯誤が続いている。そんな中でも、校長として今、何ができるか、何をすべきなのかについて、会員で話し合い、知恵を出し合って、目の前の子どもたちの将来を見据えた活動を行っていききたい。

両 今年度の活動に向けて

会津美里町立新鶴小学校 仁科 篤弘

1 はじめに

両沼支会は5町2村14校の会員で組織している。広範囲な地区で、小学校数が1～2校という町村が多いのも特徴の一つである。そのため、町村をこえたつながりをもって研鑽し、校長としての力量を高められるように努めていきたい。

2 本年度の取組**(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応**

- 各地教委との連携をとりながらも、感染防止への具体的な対応について情報交換を行い、児童、教職員、保護者も含めた感染防止のための対応策を考える。
- 各町村の方針や各校の実情の中での取組について情報を共有し、コロナ禍での学校行事等の在り方の方向性を考えていく。

(2) GIGAスクール構想への取組

- 各町村でのGIGAスクール構想を受けての現状の把握と、授業改善への方向性を探る。

(3) 防災への取組

- 地震、風水害などの自然災害や交通事故、不審者による事案等に対応できるように、行政当局や交通安全母の会、見守り隊等の関係機関・団体との連携の在り方を協議する。

(4) 校長の人材育成面での対応

- 本支会は、本年度昇任した校長は1名であるが、半数が1,2年目の校長である。他地区からの赴任者も多い。校長会活動や支会研究を通して、経験の浅い校長へ様々な面からアドバイスをを行い、校長同士の横のつながりを大切にしていこうにする。

- 学校経営研修会等、教員研修の内容・方法等を改善しながら、ミドルリーダーを育て、次代を担う管理職の育成に取り組む。

(5) 支会研究の充実

- 県小学校長会の主題、視点に基づきながら、支会の現状と課題を見つめた計画的・継続的な研究実践を推進する。

3 むすびに

新型コロナウイルス感染症に立ち向かい、新しい学校の生活様式を踏まえた学校運営ができるよう校長が連携し合い、子どもたちの豊かな人間性の育成に努めていきたい。

南
会
津

今年度の活動に向けて

只見町立朝日小学校 齋藤 勝芳

1 はじめに

南会津支会は、3町1村20名の会員で構成されている少人数の支会である。令和4年度の人事異動により新しく5名の会員が加わり、新体制がスタートした。

2 本年度の取組

(1) 学校経営の充実

- ① 学習指導要領の趣旨をふまえた実践と研修
 - ・ カリキュラムマネジメントの実現と主体的・対話的で深い学びの推進
 - ・ 希望と生きがいを育む心の教育の充実
 - ・ 道徳科、小学校の外国語科・外国語活動の内容の研修と実践
- ② 南会津の自然や文化の特質を生かした教育活動の充実
- ③ 安全・安心な学校づくりに向けた今日的な教育課題と児童生徒の人権教育、情報モラル教育及び生徒指導等、安全確保の問題の解決
- ④ 社会に開かれた教育課程実現に向けた家庭・地域社会との連携・協働の在り方についての実践と情報交換
- ⑤ 特別支援教育の充実に向けた、各関係機関との連携及び研修の実施
- ⑥ GIGAスクール構想に基づき、ICTを活用した効果的な教育の在り方の研修と実践
- ⑦ 持続可能な社会を構築する担い手を育む教育（SDGs/ESD）の推進

(2) 教育諸条件の整備

- ① へき地・小規模校の多面的な状況理解に努め、教育の安定性・継続性の確保に努める。
- ② 支援員の各学校配置や特別支援学級の新設に向けた働きかけなど、特別支援教育に関する環境の整備に努める。
- ③ 働き方改革の趣旨に鑑み、校務の効率化・合理化により多忙化の解消に努め、働きやすい職場環境を整えていく。

(3) 組織活動の充実

- ① 中堅教員や講師等の研修を奨励し、郡内教員の人材育成に努める。

3 むすびに

コロナ禍であっても、新たな研修の進め方について考え、実りある成果を生み出すため校長会一丸となって邁進していきたい。

相
馬

今後の活動に向けて

相馬市立中村第一小学校 渡邊 義人

1 はじめに

3月16日の大地震の際に、温かい励ましの言葉をいただき、また、会長様のご配慮で県小学校長会より被災した小学校及び会員に見舞金をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

本支会は、小学校24校、義務教育学校1校の会員で構成されています。義務教育学校は、震災後に避難していた飯館村の小・中学校が令和2年4月に統合して創立した「いいたて希望の里学園」です。学校の状況は違いますが、連携をさらに深めながら、各校の課題解決の成果を共有し、自校の課題解決につなげていきます。

2 本年度の取組

(1) 研究の推進

「健やかな体」「知性・創造性」「自立と社会性」の研究課題ごとに三つのグループを編制しています。研究推進をリードする代表者が中心となって、課題解決における「校長のあり方や関わり方」について各校での実践例を持ち寄り、協議を重ねながら研究を深めていきます。3回目の研修会では、支会大会として各グループの研究を共有します。

(2) 若い教員の課題解決に関わる協議

新採用や2地区目の若い教員が多くなり、教員の中には、子どもたちへの関わり方で悩みや課題を抱えている者も少なくありません。教員への支援のあり方などを協議することによって、自校の若い教員や課題を抱えている教員への校長としての指導力をさらに高めていきたいと考えています。

(3) その他

不登校・虐待などの生徒指導上の問題や心身の不調を訴える教職員への対応、さらに働き方改革などについても、グループでの協議題にしたり、各地区の校長会で情報共有したりするなどして課題解決に努めていきます。

3 むすびに

コロナ禍に加えて、本地域ではここ数年、大水害、2度の大地震など、毎年のように災害に見舞われており、校長の強いリーダーシップや危機管理能力が一層求められています。本支会では、これまで以上に連携を強め、学校が直面する課題解決に努めていきます。

双 今年度の活動に向けて

双葉町立双葉北小学校 井戸川 浩

1 はじめに

双葉支会は、令和3年度末に統合や義務教育学校の開校などにより7校が閉校となり、単独校校長が4名、併設校校長が1名（中学校籍）、兼務校校長が1名、義務教育学校校長が2名の8名で構成されています。依然として避難先での教育活動を継続している学校が3校あります。

2 本年度の取組**(1) 研究の推進**

支会で取り組む課題として「ふるさとを愛し、ともに未来を切り拓くたくましい子どもを育てる学校経営と校長の在り方」とし、「学校安全」と「双葉ならではの教育」に焦点を当てて研究を進めていく予定です。

(2) 地区研修

本支会では、8町村を二つのグループに分けそれぞれが研究テーマに沿って研究を推進し、各学校の取組を共有する予定です。そして、支会大会を開催し、研究を深めていきます。

(3) 各専門部の取組

行財政部、研究部、生徒指導部、広報部の4部を設け、各部が県の取組を踏まえながら活動しています。

(4) 双葉地区の課題への対応

双葉地区の学校は、いまだ避難先での教育活動を継続していたり、地元に戻っていても極少人数だったり、統合による新設校や義務教育学校の開校だったり教育環境は多岐にわたり、学校によって様々な課題を抱えています。その課題解決の一助となるよう次の活動に取り組んでいきます。

- ① ふるさと創造学の推進
- ② 小学校絆づくり交流会
- ③ 小学校教員研修会
- ④ 近隣校との交流活動・合同授業
- ⑤ 遠隔合同授業

3 むすびに

震災から11年が経過し、双葉郡教育復興ビジョンの意義や震災の記憶が薄らいでいく中、もう一度原点に戻って「双葉ならではの教育」について再確認し、校長が風化防止にリーダーシップを発揮していけるよう研修を進めていきたいと考えています。

いわき 今年度の活動に向けて

いわき市立平第五小学校 大石 正文

1 はじめに

いわき支会は、小学校63校（現在2校が休校）のうち、中学校長が併任する2校を除く59名により構成されている。令和3年度末の人事異動による新任13名、異動12名、再入4名という半数近い会員の入れ替えを受け、改めて会員相互の連携強化と、組織のさらなる充実を図っていく。

2 本年度の取組**(1) 活動目標と活動の重点**

活動目標を「ともに学び、考え、行動する校長会 たくましく生き ともによりよい未来を創っていく子どもたちの育成に向けて」とし、次の4点を重点に掲げている。

- ① 信頼される学校づくり
- ② 研究・組織活動の充実
- ③ 働き方改革の推進、教職員の資質向上、人材育成
- ④ 県教委・市教委等関係機関との連携

(2) 各専門部会

行財政部では、教育諸条件の課題解決のため調査をもとに提案・提言活動を行い、教育活動の充実に取り組む。

研究部では、各ブロックの主体性・独自性を生かし、二つの発表分科会と三つの希望分科会で、「学校経営と校長の在り方」の視点を明確にした実践研究を進める。また、東北連小岩手大会で、視点1「経営、組織・運営」について発表を行う。

広報部では、広報「いわき」を年2回発行し、会員相互の情報の共有を図る。

生徒指導部では、当面する課題について情報収集を行うとともに、小中校長会連絡協議会・各方部校長会・関係機関等との連携を密にして問題解決に努める。

(3) 市小学校長会主催行事

子どもたちのよりよい成長のため、社会状況の変化やコロナ禍への対応等を踏まえた行事を実施し、それぞれに成果と課題を明らかにしていく。

3 むすびに

いわきの未来を担う子どもたちのため、何より安全・安心であるとともに、充実した教育活動の実践を目指して、組織的に取り組んでいきたい。

挑戦し誰かを喜ばすことができる人は "皆ヒーロー"

ダルライザープランニング 代表 和知 健明さん

白河市のご当地ヒーローダルライザーを考案し、映画制作等々、白河市をはじめとした県南地域活性化のために活躍されているダルライザープランニング代表の和知健明さんに、これまでの地域での活動や、その原動力となっている思いなどを伺いました。



ーダルライザーが生まれた経緯をお聞かせくださいー

長男が生まれ、子どもの将来を考えた時に、白河市のシャッター街が気になるようになりました。子どもたちが大きくなるまでに、誇りが持てる明るく活気づいた街になってほしいという思いがあり、現状を変えたいと思いました。

2005年に公開された『バットマン・ビギンズ』という映画も、自分がヒーローになって街を変えるという物語だったので、そのドラマに影響を受けてコンセプトをまとめたのがダルライザーの原点です。

ー信条としていることや活動の原動力を教えてくださいー

子どもたちに、挑戦する大人の背中を見せたいというのがありました。第1段階の挑戦としては、ヒーローを手作りで創り上げ、経験のないメンバーとトレーニングをしてヒーローショーを行いました。第2段階の挑戦としては映画制作です。1作目『ライズ ダルライザー』は映像経験を積んだプロをスタッフに、キャストは市民がやるという挑戦をしました。今後、撮影予定の悪役を主人公にしたドラマ『ダイス結成秘話』では、自分たち市民の作品にしようと、スタッフ・カメラマン・俳優等々の映画制作チームを地元白河の人で構成したいと考えています。こんな一つ一つの挑戦する姿を子どもたちに見せたいと考えていますが、本質的なことはヒーローはコスチュームなど着ていなくても、「挑戦し誰かを喜ばすことができる人」は皆ヒーローだと考えています。僕自身は演劇経験を有していますが、未経験のメンバーが必死で練習し、成長する姿を見てそう考えるようになりました。ヒーローにコスチュームは必要ないのです。後任育成もダルライザーを着用する人を育てるのではなく「挑戦する人」を育てたいと思っています。挑戦をして、今はない何かを生み出すことが楽しくて仕方ないですね。

ー福島県内の小学校長へメッセージをお願いしますー



インタビューの様子から

「教育は国家百年の計」という言葉があります。ダルライザーをやるようになってから教育の重要性を痛感するようになりました。子どもたちはすぐに真似をしますから。私自身PTA本部役員として関わるようになり、歴代の校長先生や、直接子どもたちに関わる先生方の背中を見てみると、感謝と尊敬の念しか湧いてきません。そんな教育現場にいらっしゃる先生方の思いで子どもや地域は変わるので先生も立派なヒーローだと思っています。

プロフィール

- ・ 桐朋学園大学短期大学部芸術科演劇専攻卒
- ・ 白河市立白河第二小学校 P T A 副会長
- ・ 白河商工会議所青年部 会長
- ・ ダルライザープランニング 代表

(取材 西郷村立米小学校長 吉田 衛)

春の叙勲

～おめでとうございます～

令和 4 年の「春の叙勲」が発表され、本会元会員の叙勲者は次のとおりです。なお、規定により祝電をお送りいたしました。

☆瑞宝双光章（3 名）

石川 哲夫 様 元いわき市立小名浜第一小学校長
斎藤 龍雄 様 元二本松市立岳下小学校長
菅野 健一 様 元郡山市立金透小学校長

令和 4 年度 小学校長会役員

◎支会長 ○常任理事

職 名	氏 名	勤務校
会 長	横 山 貴 英	福 島 一
副 会 長	丹 治 秀 樹	福 島 四
	小 林 義 弘	小 金 井
	渡 辺 惣 吾	石 川
	高 野 淳 一	平 一
監 事	柳 沼 啓 之	橋
	井戸川 浩	双 葉 北
	田 中 純	喜 多 方 二
支 会 長 ・ 理 事	○ 丹 治 秀 樹	福 島 四
	○ 横 山 貴 英	福 島 一
	◎ 遠 藤 和 宏	釧 芳
	○ 佐 藤 政 俊	国 見
	○ 大 内 雅 之	二 本 松 北
	○ 安 齋 憲 治	二 本 松 南
	○ 柳 沼 啓 之	橋
	○ 大 知 里 重 政	芳 山
	○ 近 藤 静 雄	金 透
	○ 松 山 祐 介	須 賀 川 二
	○ 菅 野 哲 哉	須 賀 川 一
	○ 渡 辺 惣 吾	石 川
	○ 酒 井 修 三	玉 川 一
	○ 安 生 昌 弘	船 引
	○ 猪 狩 仁	三 春
	◎ 井 上 久 仁 夫	白 河 二
	○ 鈴 木 雅 人	棚 倉
	○ 小 林 義 弘	小 金 井
	○ 鈴 木 基 之	城 北
	○ 田 中 純	喜 多 方 二
支 会 長 ・ 理 事	○ 杉 原 智	喜 多 方 一
	◎ 藤 田 雅 也	本 郷
	○ 石 見 勝 則	坂 下
	○ 大 桃 豊	桧 沢
	○ 白 井 秀 行	田 島 二
	◎ 渡 邊 義 人	中 村 一
	○ 高 田 英 世	中 村 二
	○ 井戸川 浩	双 葉 北
	○ 横 山 浩 志	なみえ創成
	○ 高 野 淳 一	平 一
	○ 菅 家 章 一	小 名 浜 一
	○ 大 石 正 文	平 五

令和 4 年度 小学校長会事務局員名簿

◎部長・常任幹事 ○副部長

役 職 名	氏 名	勤務校
事 務 局 長	佐 藤 浩 昭	清 明
総 務 部	◎ 関 口 和 夫	鎌 田
	○ 阿 部 貴 史	渡 利
	菅 藤 文 彦	御 山
	小 野 真 教	川 俣
経 理 部	◎ 松 野 光 伸	清 水
	○ 松 田 倫 明	庭 塚
行 財 政 部	◎ 伏 見 珠 美	福 島 二
	○ 古 田 幸 裕	矢 野 目
	齋 藤 雅 敏	福 島 三
	黒 羽 慎 一	佐 倉
	星 文 行	佐 原
	岩 井 智 哉	陸 合
	穂 山 俊 之	本 宮
	◎ 穴 戸 与 一	金 谷 川
研 究 部	○ 渡 邊 かほる	森 合
	山 本 巖	三 河 台
	小 松 浩 行	杉 妻
	服 部 英 昭	蓬 菜 東
	蓬 田 孝 夫	月 輪
	花 輪 忠 康	余 目
	渡 邊 裕 樹	平 野
	小 川 尚 子	野 田
	塩 田 俊 郎	附 属
	鈴 木 茂	大 田
	児 山 秀 典	油 井
	◎ 佐 藤 和 暁	笹 谷
生 徒 指 導 部	○ 大 内 剛	吉 井 田
	青 柳 茂 宏	荒 井
	荒 川 修	大 森
	伊 藤 比呂美	大 平
広 報 部	◎ 坂 本 眞 理	岡 山
	○ 吉 田 牧 子	庭 坂
	高 橋 俊 勝	大 笹 生
	島 田 祥 司	鳥 川
事 務 局	長 澤 昭 仁	柱 沢
	須 田 尊	事 務 長
	土 田 里 美	主 事

編集後記

「ワクチン4回目接種」、このような言葉が人々の話題に上ると誰が予想したでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響は未だ続いています。新しい生活様式が当たり前の新入学児童を今春、また迎えました。このコロナ禍、そして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興への道のりは、必ず乗り越えられるものと信じています。こうした緊急事態にも関わらず、玉稿をお寄せいただきました関係各位の皆様方に、心より感謝申し上げます。

(一助)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友
- 福島県立高校入試問題集
- ◆ 貸し会議室
- 福島県書きぞめ展
- 教育関係者名簿
- (教育関係者は半額)

福島市上浜町 10-38 office@kyoukukaikan.jp
TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208

■発行 福島県小学校長会

〒960-8107 福島市浜田町 4 番 16 号 富士ビル 2 F
電話 024(534)5411

会長 横山貴英（福島市立福島第一小学校）

■編集 坂本眞理・吉田牧子・島田祥司・高橋俊勝・長澤昭仁

■印刷 有限会社吾妻印刷